



子どもたちの笑顔がはじけた！

校長 豊島 のぼる 登

はじめじめとしてすっきりしない天候が続いています。梅雨空の合間に照りつける日差しも、だんだん強くなってくると感じます。雨や暑さと格闘しながら登校してくる子どもたちを、1年生が育てているアサガオの色とりどりの花が迎えてくれています。暑さに向かっていくこの時季は、体力的につらいことも多く、体調を崩しがちです。水分補給だけでなく、十分な栄養と休養をとって、規則正しい生活を心がけたいものです。そして、気持ちは明るく前向きにいきましょう。



昨年度の1学期は6月からの始まりで、十分な教育活動ができなかったという思いがありました。今年度はそれに比べると、様々な対策をとりながらではありますが、ほぼ通常どおりの教育活動が行えたのではないかという充実感があります。1学期のまとめの時期にあたって、以下の3点について振り返ってみます。

①6月17日から開始した「水泳・水遊び」の学習は、昨年、一昨年とも中止となっていたので、3年ぶりの実施となりました。混雑を避けるために、2クラスずつで行うこととして、全教職員で特別の指導体制を組みました。「大きな声を出してはいけない」という厳しい制約があるにもかかわらず、子どもたちは「楽しかった！」と言ってくれます。この言葉が私たちの励みとなっています。

②6月22日には、異学年のなかよし学級で、「東っ子まつり」を行いました。各クラスでゲームをするお店を出して、全校のみんなで楽しみました。特に4、5、6年生は高学年として、お店の計画を立て、準備や運営を切り盛りしました。低学年にも役割を与えたり、お店を回るときにも「どこに行きたい？」と聞いたりする姿は、とても微笑ましく頼もしいものでした。1年生だけでなく2年生も初めての体験となったわけですが、みんなで創り上げる活動のよさを大いに味わえたのではないかと思います。お店を回る順番をグループごとに指定し、一教室に入る人数を制限するという対策をとりました。出入口で消毒をすることにも慣れてきて、“新しい生活様式”が今の普通のスタイルになりつつあるように感じました。こうしたみんなで楽しむ活動ができ、子どもたちの笑顔がはじけたことは、私たちにとってもうれしいものでした。

③今年度、最も変化があったこととして、**タブレット端末の導入**が挙げられます。これをどう効果的に活用していくかということに挑んだ1学期でもありました。ログインの仕方から始まって、個別に取り組むドリル学習や学んだことをまとめてプレゼンする学習、さらには自分の意見や感想を友だちと共有して考えを深める学習などを、いろいろと試しながら、どんな活用が有効かを探っています。今後さらに活用を進めながら、子どもたちがあすの授業を楽しみにできる学校づくりを進めてまいります。